様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号：４２６７６
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2012～2015
課題番号：２４６５３１３３

研究課題名（和文）日本の繊維産業興隆期における女性労働者の労働意識と教養についての研究

研究課題名（英文）Studies on occupational consciousness and education of women workers in Japan's textile industry prosperity period

研究代表者
平井　郁子（HIRAI, Ikuko）

大妻女子大学短期大学部・家政科・准教授

研究者番号：３０３８９８９５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：　近代日本の繊維産業の発展を支えた女性労働者の労働意識を文献、聞き取り、アンケートにより調査した。女性労働者は、労働に対して不満を持っていない。貧困な生活環境から抜け出し、十分な食事が得られ、給金がもらえることで、労働意力を高めている。また、就学歴が高くなると労働への目的が明確になり、社内教育に参加し、生活に必要な教養を学ぶ時間が多くなっている。
　現在、繊維産業興隆期を迎えているベトナムの女性労働者は、就学歴が高い傾向にある。そして、将来の生活に希望を持っている。以上の結果から更に専門的教育を大学教育で強化することにより、就労意識、教養は大学教育で補うことが可能であると考えられる。

研究成果の概要（英文）：　The will to work of workwomen who supported the development of modern Japanese textile industry was investigated by documents investigation and hearing investigation. The workwomen were not satisfied with their labor.The will to work was increased by the reason that they got over poverty life and had good meal and were paid salary. In proportion to good education background the purpose of work had become clear and the time to participate in-house training and lean the culture had increased.
 Currently, Vietnamese workwomen who have reached the textile prosperity period tend to be good education background. And Vietnamese workwomen have hope to the future life. From the above results, it is thought that it is possible to supplement the will to work and the culture of the workwomen by strengthening more specialized education in university education.

研究分野：被服材料学

キーワード：繊維産業　女性労働者　労働意識　就学歴　教養　大学教育

１．研究開始当初の背景

日本の繊維産業の明治から昭和に至る発展は、製糸業・綿紡績業によって主導されてきた。繊維産業を担ってきたのは、女性労働者たちである。繊維産業が大きく発展する中でこれらの女性労働者たちの果たした役割および貢献、そして労働意識の時代的な変化について、女性の教養の観点から研究したもの①は見当たらない。なお、女性の教養とは、女性の知識、徳性、意欲などを含み、労働意識の形成要因を指す。さらに、日本の繊維産業興隆期と社会環境の類似しているベトナム、カンボジア等の繊維産業に携わる女性労働者の労働意識と教養の比較、日本のアパレル産業に就職を希望している現代女子短大生の持つ就労意識と教養を比較研究したものも見当たらない。本研究は、日本とアジア諸国での繊維産業の発展研究から得られた知見を適用し、繊維産業における女性労働者の労働意識と教養を比較検討することで、産業発展に貢献する女性労働者の特性要因を明らかにする。

２．研究の目的

日本の繊維産業は、近代日本の産業の発展に多大なる功績をもたらした。その理由として通常は、先進技術の導入や労働者の低賃金があげられるが、本研究では女性労働者の教養（知識、徳性、意欲など）の貢献が大きかったことを明らかにする。特に、明治初期の女性労働者が持っていた労働意識の高さと教養の関係を解明し、その教養が産業の発展に及ぼした効果を明らかにする。また、それは日本独自の女性の労働意識であり、教養なのかを明らかにするため当時の日本と状態が類似している現代のアジア諸国と比較する。さらに、昨今の女子短大生の就労意識の低さは、繊維産業興隆期の女性労働者が持つ教養、現代のアジア諸国の女性労働者の持つ教養に対して、不足している教養が何であるのかを明らかにし、不足している教養を教育で補うことができないかを検討することを目的とする。

３．研究の方法

（１）文献調査

繊維産業興隆期に就労した女性労働者がほとんど生存していないので、文献から当時の繊維産業の女性労働者の労働状況と女子教育の文献調査を行った。

① 市立岡谷蚕糸博物館発行、岡谷蚕糸博物館紀要１号（1996 年）～14 号（2009 年）に連載されている岡谷の製糸業で働いていた方たちの聞き取り調査の記録がある。この中から工女として働いていた方々（1898 年生～1906 年生）の聞き取り調査資料の中から年齢、出身地、家族構成、家業、就学歴、就労目的、就労の意思、就労に対する意識、生活の場、社内教育内容、社内教育時間、労働以外の楽しみ、将来への希望などのデータを抽出した。このデータを数量化Ⅱ類により分析した。

② 京都綾部地方紡績会社小史、社史から 1896 年創業時から明治、大正、昭和にかけての工女の採用や工女教育について調べた。会社の資料室で過去の工女教育の資料、応募工女名簿を調査した。①と同じ項目のデータを抽出し、数量化Ⅱによる分析を行った。

（２）聞き取り調査

① 現在、岡谷市の製糸工場で就労している女性労働者に聞き取り調査を行った。聞き取り調査に協力していただいた方たち（1929 年生～1970 年生）は、全員が以前、岡谷市の製糸工場で働いた経験があった。就学後、最初に製糸工場で就労したときの労働に対する意識、目的、社内教育、労働以外の楽しみ、どのような将来への希望を持っていたかを、聞き取りした。

② 日本の縫製工場（千葉県）に研修生として来日している外国人（中国人、ベトナム人）に聞き取り調査を 2 回にわたり、通訳を介して行った。研修生としての来日した目的、就労に対する意欲、本国へ帰国した後の希望などを聞き取りした。

（３）アンケート調査

① ベトナム（ハノイ、ホーチミン）の縫製工場で就労している女性労働者にアンケート調査を行った。アンケート用紙は、日本語をベトナム語に翻訳して行った。就労目的、就労に対する希望、将来への希望などについてアンケートした。

② 日本の大学へ来ている留学生（ベトナム人）にアンケート調査を行った。留学目的、アルバイトの有無、就労への希望、将来への希望をアンケートした。

③ 大妻女子大学短期大学部家政科家政専攻の学生（２級衣料管理士を履修者 1.2 年生）にアンケート調査を行った。短大への進学理由、アルバイトの有無、就職・進学への希望、就労意識、結婚・出産後の就労に対する考えなどをアンケートした。

④ 服飾系短大（1 年生）の学生にアンケート調査を行った。同上

⑤ 高校生（1.2 年生　埼玉県）にライフスタイルのアンケート調査を行った。進学・就職希望、どのような仕事に就きたいか、結婚・出産後の就労意識などについてアンケート調査した。

４．研究成果

（１）文献調査①、②、聞き取り調査①より

① 調査当時年齢が高い女性は、就学歴が低い傾向がある。これは、当時の学制によるもので、農家の女子は、尋常小学校を卒業が平均的な教育（文部省学制百年史）であった。

② 就学歴が高くなると労働への目的意識も明確になり、将来への希望を抱くことが多くなっている。

③ 就学歴が高くなると社内教育に積極的に参加し、生活に必要な教養を学ぶ時間が多くなる傾向がある。

④ 製糸業に従事していた工女たちは、労働にそれほどの不満を持っていない。貧困な生活環境から抜け出すことができ、十分な食事が得られ、給金がもらえるという理由が労働意欲を高めている。

（２）聞き取り調査①、②より

① 外国人研修の中国人とベトナム人を比較すると、中国人よりベトナム人の方が就学歴は高いが、就労意識は中国人の方が高い傾向にある。就労目的は、中国人は本国への仕送りが主な理由である。ベトナム人は、本国に帰って自分の夢をかなえるための資金源を作る目的で研修生を希望している。

② ベトナム縫製工場でのアンケートでは、縫製工場で就労している工女は、多くが高校卒業以上であり、就労から得た賃金で生活を楽しみ、将来への希望も持っている。

③ ベトナムからの留学生のアンケートでは、高校卒以上から専門学校、大学卒業まで含まれ、卒業したら日本の企業に就職、あるいは本国の日本企業に就職したいという将来に希望を持っている。

④ 短大家政科で被服系の授業を履修している学生は、家政や被服に興味があるという理由から短大を選んでいるが、将来の仕事に活かし、結婚・出産後も仕事を続けるとは考えず、教養としてとらえている。

⑤ 服飾系短大生は、服飾が大好きという理由で短大を選んでいる。将来の仕事も服飾系の仕事に就きたい、結婚・出産後への就労意識がある。

⑥ 高校生へのアンケートでは、ほとんどの生徒は進学希望であり、将来就きたい職業への希望もある。しかし、結婚・出産後も仕事を続けるかの質問に対して、結婚後は仕事をしない、結婚後は続けるが出産後は子育てしたい、分からないと回答した生徒の方が70%と多く、就労も出産までで一区切りとなっている。

以上の検討結果からさらに専門的教育を大学教育で強化することにより、女性労働者の就労意識、教養は大学教育で補うことが可能と考えられる。

＊この研究に当たり大妻女子大学生命科学研究倫理委員会へ研究の手法などを提出し

ている。

<引用文献>

① 岡谷蚕糸博物館紀要編集委員会、岡谷市蚕糸博物館紀要、1～14 号、1996～2009

② 郡是製糸株式会社、郡是 40 年小史、1936、P.27、P.37、P.128

③ 郡是製糸株式会社創業事務所、應募工女名簿、1896

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

① 平井郁子、繊維産業を支えた工女の役割と労働意識－製糸業を中心として、大妻女子大学家政系研究紀要、査読無、第 50 号、2014、81-86

〔学会発表〕（計１件）

① 平井郁子、辻幸恵、日本の繊維産業興隆期における女性労働者の労働意識と教養についての研究、日本繊維製品消費科学会、2016 年年次大会、2016.6.24、東京家政大学（東京）

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
平井　郁子（HIRAI,Ikuko）
大妻女子大学短期大学部・家政科・准教授
研究者番号：30389895

(2)研究分担者
中村　邦子（NAKAMURA,Kuniko）
大妻女子大学短期大学部・家政科・講師
研究者番号：40171954

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

（4）研究協力者
辻　幸恵（TSUJI,Sachie）